



第29号 発行所 近畿大学農学部緑友会 広報・編集委員会 編集委員長 廣岡 義博 631-8505 奈良市中町3327-204 TEL: 0742 (43) 1511 http://www.nara.kindai.ac.jp/

大学生との交流の機会を ご検討いただければ幸いです 緑友会会長 森 本 正 則



今春は、これまでと変わら

ない新学期の様子を農学部で見ることが出来ました。しかし、コロナ禍は、学生の課外活動に思った以上の爪痕を残し、特にクラブや同好会活動への影響は甚大です。そこで緑友会では、卒業生の方々に積極的に現役学生と関わりを持つて頂き、学生時代のクラブ同好会活動などのことを伝えてもらいたいと考えております。具体的には、クラブ・同好会のOB会をはじめ、研究室同窓会などの積極的な開催やOB会の設立などです。これを緑友会は積極的に支援したいと考えております。その様なイベントを実施したいが関係者の連絡先がわからない場合などは、緑友会の卒業生名簿情報を活用下さい。今回の会報には、現在のクラブ・同好会についての情報を掲載いたしましたので、これも合わせて参考にして下さい。現役学生にとって卒業生の方々と交流を持つことは、彼らが社会に出てから良い影響があると考えております。ま

た、OB会や同窓会などのイベントは、現役学生にとっても対面でのコミュニケーションスキルを高める良い機会ともなるかと思っております。卒業生のみならずには世代を問わず積極的な取り組みや、緑友会活動への参加をお願いいたします。



風雪に耐え、新緑の芽が息吹くように... 農学部長 森 山 達 哉



緑友会の皆さまにおかれましては、日頃から本学の教育

研究及び同窓会活動に多大なご援助ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。さて、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も令和5年の5月に5類へと変更され、社会生活や大学での教育研究活動もコロナ禍前の状況に戻り、ようやく以前の

ような賑やかなキャンパスを取り戻すことが出来ました。そして、当たり前のことではあります。人々が直接対面し、コミュニケーションを取ることが人間関係の基本であると強く感じる日々です。特に印象深いイベントとしては、昨年11月の農学部祭が挙げられます。久しぶりの完全対面方式で、コロナ禍前と同様の方式に戻り、多くの参加者を得て大いに盛り上がり、大成功を収めました。また、先日の卒業式では、最も大きな影響を受けた学年になりますが、逆境下でも歯を食いしばり、所定の課程を修め、お互いに

農学研究科の近況 大学院農学研究科長 細川 宗 孝



農学部緑友会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。緑友会の皆様のご支援と学生へのサポート、また年度末には大学院生にも緑友会賞を授けて頂き、ありがとうございます。大変な励みになっております。さて現在、農学研究科には博士前期課程207名、博士後期課程15名が在籍しております。毎年人数が増え続けており、これは自身の研究テーマを続けたい、より高いキャリアを狙いたいという学生の気持ちの現れだと思っております。博士後期課程1年生の授業料減免については全学の減免枠で4名、農学研究科の枠で3名の合計7名全員の減免が決定しました。また、博

Table with 2 columns: Course (博士後期課程, 博士前期課程) and Award (最優秀賞). It lists names of students and their thesis titles.

農学部の近況 事務部長 植田 昌 伸



農学部緑友会の皆様、いかにお過ごしでしょうか。日頃から本学の教育研究活動等に多大なるご支援ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。初めまして、本年4月から奈良キャンパス学生センター事務部長を拝命いたしました植田昌伸(うえたまさのぶ)と申します。どうぞよろしくお願いたします。私は本学理工学部出身で、私が学生の頃、農学部はまだ東大阪キャンパスの一角(15号館と22号館)にありました。平成元年に奈良市へ移転し、

Green Friends Association Facebook announcement. Includes text: '農学部情報や卒業生の活躍など掲載' and a QR code to access the Facebook page.

していく所存です。最後に、本学は来年初創立100周年を迎えます。記念事業も着々と進んでおりますので、何卒ご厚志賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。



当学科では、令和6年度は、令和6年度4月から新入生131名を迎えました。また、昆虫学研究室の米谷衣代先生が准教授に昇任されました。現在は7研究室で研究と教育を運営しています。新年度の授業も始まり、農学部も活気が戻ってきました。農業生産科学科では、分子レベルから圃場レベルまでの幅広い専門知識と研究技術を取得できるような体制を整えているとともに、SDGs（持続可能な開発目標）に係った研究も活発に行っています。実習では、農学野外実習やアグリビジネス実習に加え、昨年度から、新たにICT（情報通信技術）などを駆使した実践型先端農業実習を展開しています。今後とも、

当学科では、桜が満開のものと130名の新入生を迎え、新年度をスタートしました。また、卒業式は保護者の方々にも来場いただき、にぎやかな卒業式が戻ってきました。卒業生のご健康とご活躍を祈念しています。学科の近況ですが大学院への進学者が30名以上と大きく増えました。各教員の優れた研究指導の賜物とうれしく思います。応用微生物学研究室の倉田淳志先生が教授に昇任され、ますます教育・研究に邁進していただきます。体制は今まで通り6研究室で研究・教育に従事しています。昨年度から授業も対面となり大学にも活気が戻ってきました。今後とも緑友会の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当学科では、今春に新入生83名、小川直子講師（栄養教育研究室）、および岩佐慎也契約助手を新たに迎ええました。一方、3月末で川西正子准教授および関谷美喜子契約助手が退職されました。3月に行われた第38回管理栄養士国家試験では、新卒業生75名が受験し54名が合格しました（合格率72.0%）。この値は、全国平均（新卒）の合格率80.4%を下回り、食品栄養学科創設以来、初の衝撃的な出来事として深く記憶に刻まれました。このような不名誉を二度と繰り返さないよう、教員一丸となって教育・研究に邁進し、社会に貢献する人材を育成します。皆様方からご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



物質に着目し、それらの制御機構の解明や応用研究に多くの学生とともに日々取り組んでおります。大学院生が学会発表する機会も昨年度から再び増加し、各学会で優秀賞を受賞する学生も見られるなど、当学科の優れた研究成果が多くのメディアにも取り上げられております。引き続き、学科教員一丸となって研究・教育に邁進してまいりたいと思っておりますので、今後とも緑友会の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当学科では、令和6年度は、令和6年度4月から新入生131名を迎えました。また、昆虫学研究室の米谷衣代先生が准教授に昇任されました。現在は7研究室で研究と教育を運営しています。新年度の授業も始まり、農学部も活気が戻ってきました。農業生産科学科では、分子レベルから圃場レベルまでの幅広い専門知識と研究技術を取得できるような体制を整えているとともに、SDGs（持続可能な開発目標）に係った研究も活発に行っています。実習では、農学野外実習やアグリビジネス実習に加え、昨年度から、新たにICT（情報通信技術）などを駆使した実践型先端農業実習を展開しています。今後とも、

当学科では、令和6年度は、令和6年度4月から新入生131名を迎えました。また、昆虫学研究室の米谷衣代先生が准教授に昇任されました。現在は7研究室で研究と教育を運営しています。新年度の授業も始まり、農学部も活気が戻ってきました。農業生産科学科では、分子レベルから圃場レベルまでの幅広い専門知識と研究技術を取得できるような体制を整えているとともに、SDGs（持続可能な開発目標）に係った研究も活発に行っています。実習では、農学野外実習やアグリビジネス実習に加え、昨年度から、新たにICT（情報通信技術）などを駆使した実践型先端農業実習を展開しています。今後とも、

当学科では、桜が満開のものと130名の新入生を迎え、新年度をスタートしました。また、卒業式は保護者の方々にも来場いただき、にぎやかな卒業式が戻ってきました。卒業生のご健康とご活躍を祈念しています。学科の近況ですが大学院への進学者が30名以上と大きく増えました。各教員の優れた研究指導の賜物とうれしく思います。応用微生物学研究室の倉田淳志先生が教授に昇任され、ますます教育・研究に邁進していただきます。体制は今まで通り6研究室で研究・教育に従事しています。昨年度から授業も対面となり大学にも活気が戻ってきました。今後とも緑友会の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当学科では、今春に新入生83名、小川直子講師（栄養教育研究室）、および岩佐慎也契約助手を新たに迎ええました。一方、3月末で川西正子准教授および関谷美喜子契約助手が退職されました。3月に行われた第38回管理栄養士国家試験では、新卒業生75名が受験し54名が合格しました（合格率72.0%）。この値は、全国平均（新卒）の合格率80.4%を下回り、食品栄養学科創設以来、初の衝撃的な出来事として深く記憶に刻まれました。このような不名誉を二度と繰り返さないよう、教員一丸となって教育・研究に邁進し、社会に貢献する人材を育成します。皆様方からご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当学科では、この春、120名の新入生を迎えて新たなスタートを切りました。また教員人事では、令和4年度末に退職された森美穂先生の後任として、清水哲先生（環境化学研究室）が着任されました。清水先生は、プラスチックの生分解や次世代エネルギーとして注目されている水素の微生物による生産の研究を行っており、今後のご活躍が期待されます。また、河内香織先生（水圏生態学研究室）が准教授に昇任されました。コロナ禍に伴う行動規制も解除され、野外調査を従来通り実施できるようになり、教員・学生ともに元の活気を取り戻しております。卒業生の皆様には、これまでと変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当学科は、126名の新入生を迎えて令和6年度がスタートしました。学科の体制に変化はなく、15名の教員は生物がもつ様々な機能や有用



農業生産科学科 学科長 野々村 照雄



水産学 学科長 小林 徹



応用生命化学科 学科長 上垣 浩一



食品栄養学 学科長 近藤 高史



環境管理科学 学科長 城島 透



生物機能科学科 学科長 田茂井 政宏

学科の近況

卒業生の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



学科研究室・教員

農業生産科学科

- 作物学 (飯嶋 盛雄・山根 浩二・廣岡 義博)
- 育種学 (種坂 英次・築山 拓司)
- 園芸植物学 (神崎 真哉・小枝 壮太)

- 植物感染制御工学 (松田 克礼・野々村 照雄)
- 昆虫学 (香取 郁夫・米谷 衣代)
- 農業経営経済学 (大石 卓史・増田 忠義)
- 花卉園芸学 (細川 宗孝・山崎 彬)

水産学

- 水産増殖学 (澤田 好史・石橋 泰典・亀甲 武志)
- 水産生物学 (小林 徹・小林 靖尚・渡邊 俊・竹内 綾)
- 水族環境学 (江口 充・永田 恵里奈・谷口 亮人)

- 漁業生産システム (光永 靖・鳥澤 眞介)
- 水産利用学 (安藤 正史・福田 隆志・田中 照佳)
- 海棲哺乳類学 (酒井 麻衣)

応用生命化学科

- 応用微生物学 (上垣 浩一・倉田 淳志)
- 食品微生物工学 (白坂 憲章・福田 泰久)
- 応用細胞生物学 (森山 達哉・財満 信宏)

- 生物制御化学 (松田 一彦・森本 正則・伊原 誠)
- 生命資源化学 (飯田 彰・澤邊 昭義・山下 光明)
- 森林生物化学 (板倉 修司・梅澤 究)
- 学科共通 (吉岡 佐知子)

食品栄養学

- 栄養教育学 (小川 直子・明神 千穂)
- 臨床栄養学 (木戸 慎介)
- 病態栄養学 (伊藤 龍生)

- 公衆栄養学 (森島 真幸)
- 給食経営管理 (富田 圭子)
- 生体機能学 (佐久間 圭一郎)
- 栄養機能学 (増田 誠司・竹森 久美子)
- 食品化学 (近藤 高史)

環境管理科学

- 水圏生態学 (北川 忠生・河内 香織・宮崎 佑介)
- 生態系保全 (早坂 大亮・ジン タナンゴナン)
- 環境化学 (城島 透・清水 哲)

- 森林資源学 (松本 光朗・井上 昭夫・澤島 拓夫)
- 国際開発・環境学 (松野 裕・木村 匡臣)
- 環境政策学 (鶴田 格・前湯 弘弘)

生物機能科学科

- 植物分子生理学 (田茂井 政宏・佐古 香織)
- 植物分子遺伝学 (川崎 努・山口 公志)
- 動物発生工学 (加藤 容子・谷 哲弥・岡村 大治)

- 生体分子化学 (大沼 貴之・武田 徹)
- 動物分子遺伝学 (佐渡 敬・西原 秀典)
- 分子生物学 (篠原 美紀・加藤 明宣・松崎 健一郎)
- 生物有機化学 (北山 隆)

教養・教育基礎部門

木村 正則・赤羽 仁志・西垣 佐理・シェリダン ロバート ジョーン

下線：新任

新任の挨拶

食品栄養学科 栄養教育学研究室 講師 小川 直子

令和6年4月1日付で食品栄養学科栄養教育学研究室に講師として着任いたしました小川直子と申します。前職では、徳島県内の管理栄養士養成大学において教員として努めてまいりました。専門は栄養教育論であり、人を対象とした健康の維持増進に貢献する栄養教育方法について研究しています。これまでは中高

環境管理学科 講師 清水 哲

令和6年度から環境管理学科に講師として着任いたしました。清水哲と申します。前職では公益財団法人地球環境産業技術研究機構バイオ研究グループにて、微生物を使った有用化合物生産やプラスチック分解について研究してまいりました。人間の目では見ることができない小さな微生物ですが、多様な環境に適応する過程で独自の進化を遂げ、プラスチックを食べる、水素を生産するなど驚くべき能力もつものが知られております。このような微生物を環境中から見つけ出しその能力を利用することで、持続可能な社会の発展に資する技術の開発につながる研究を進めていく所存です。

食品栄養学科 契約助手 岩佐 慎也

令和6年度より食品栄養学科の助手として着任いたしました岩佐慎也と申します。私は大学・大学院でスポーツ栄養(体育学)を学んでおりましたが、その後の就職では栄養の分野から離れ、衣料品の卸売メーカーに十数年務めておりました。ここでは、営業職や商品企画、ECサイト運営等の職種を経験してまいり

退任の挨拶

前食品栄養学科 准教授 川西 正子

緑友会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。私は平成22年4月から令和6年3月までの14年間、近畿大学農学部にて勤めさせていただきました。その間、緑友会

農学部での教育・研究活動と併せて、社会連携推進センターのプロジェクトの一環として、福島県川俣町にて行った復興支援活動は大変貴重な経験でした。また、附属幼稚園・小学校・高校のご協力により、卒業研究の学生と共に食育活動にも携わりました。いずれも近畿大学に所属したからこそ経験できたことでした。皆様の指導・ご厚情に心より感謝申し上げます。末筆となりましたが、緑友会会員の皆様と近畿大学農学部の益々のご健勝をお祈り申し上げます。



近畿大学農学部緑友会第11回総会

開催日時：令和5年11月3日(金祝) 14時30分～15時10分 開催場所：近畿大学農学部202教室

尾崎 信源氏(農芸化学科 平成13年卒業、副会長)の司会進行により、総会の開会が宣言された。 総会成立の確認 農学部緑友会会長 挨拶 森本 正則 会長 尾崎 信源 副会長 尾崎 信源氏(農芸化学科 平成13年卒業、副会長)の司会進行により、総会の開会が宣言された。



総会風景

- 1. 事業報告(令和2年度) 令和4年度 築山 副会長 配布資料4(6ページ)を参考に、令和2年度、令和4年度の事業内容を報告した。引き続き緑友会ゴルフコンペが開催されている事、令和4年度の緑友会イベントとして講演会開催などについて説明された。 2. 決算報告(令和2年度) 令和4年度 築山 副会長 配布資料8(13ページ)を参考に、令和2年度、令和4年度の決算(学生部会、卒業者部会)について報告された。 3. 会計監査報告 築山 副会長



総会後に懇親会が開催されました。

- 4. 役員改選 築山 副会長 幹事会で検討した結果、引き続き現執行部体勢で今後3年間を運営していくことになったことを報告。 5. 事業計画案(令和5年度) 令和7年度 築山 副会長 配布資料15ページを参考に、令和5年度、令和7年度の事業計画案が提案された。 7. 予算案(令和5年度) 令和7年度 築山 副会長 配布資料17(18ページ)を参考に、令和2年度、令和4年度の予算案(学生部会、卒業者部会)がそれぞれ提案された。校友会のシステム変更に伴って、学生部会の収入・支出が変わった。卒業者部会では近畿大学創立100周年記念事業募金として50万円の支出を含む予算案が提案された。 学生部会費の学部徴収(4年間4,000円/年1,000円)から校友会での校会費徴収にシステム変更された場合の緑友会で使える金額の差違について質問があり、1年時で1,000円、4年時で2,000円が校友会からの支援金となることから、1,000円の減となること説明された。 提案された事業計画案ならびに予算案は、満場一致で承認された。 8. 会則改正 2件 配布追加資料(会則) 第1章 第4条 バイオサイエンス学科の名称が生物機能科学科へと変更(R2年度から)されたことに伴い、会則内のバイオサイエンス学科を削除「生物機能科学科・ABIS」となる旨の変更を行った。 第3章 第9条 下記の部分削除。(学生・教職員部会) 学生・4年間4,000円 (入学時に納入) (入学時に納入) 教職員および大学院生 1年間1,000円 (毎年納入) 9. 学科長の紹介 (森本 正則 会長) 森本会長から部会長(学科

緑友会へのご寄付のお願い

このたび緑友会は、会報発行をはじめ卒業生名簿の管理、緑友会賞の授与、現役学生の親睦レクリエーション開催協力などの緑友会活動のさらなる活動充実の為の原資として卒業生のみならずご寄付をお願いする次第です。経済状況が厳しい折に誠に恐縮でございますが、緑友会の現状をご理解頂き、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。 なお寄付金は一口5,000円とさせて頂き、お一人様の上限はございません。お振り込みの際には、氏名、卒業年度を合わせてお知らせ頂きますようお願い申し上げます。(お手数ですが、お振り込み後にお電話またはメールで、ご住所、お名前、卒業年度をお知らせ頂ければ幸いです) 〇振込口座〇 三菱UFJ銀行 富雄出張所 普通 3574857 近畿大学農学部 緑友会 〇連絡先〇 近畿大学農学部 緑友会事務局 電話 0742-43-7273 (内線 2030) 電子メール ryokujimu@nara.kindai.ac.jp 寄付者芳名一覧(2023年度ご寄付分) ●李 忠儒様(校友会 食品支部 相談役) ●「ヤロウ会」山本 伸夫様 洪川 博利様 大木 一之様 有馬 日夫様 近松 幹夫様(昭和48年度 農学科) 今後も会員相互の親睦を深め母校の発展に寄与して参りたいと考えております。どうかご支援賜りますようお願い申し上げます。

緑友会会報原稿募集のお願い

緑友会会報は、同窓生の皆様を結びつける年に一度の会報です。できるだけたくさんの方からの寄稿をお待ちしています。原稿の形式は特に問いません。お気軽にお寄せいただければ幸いです。緑友会事務局又は、研究室の先生宛にご送付下さい。



連絡先：近畿大学農学部 緑友会事務局 〒631-8505 奈良市中町3327-204 電話 0742-43-7273 (内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

長が担当することを説明)の紹介。 農業生産科学科(白楊会) 野々村 照雄 教授 水産学科(耕水会) 小林 徹 教授 応用生命化学科(朝陽会) 上垣 浩一 教授 食品栄養学科(食彩会) 尾崎 信源 副会長 14時10分に総会閉会宣言がなされた。 近藤 高史 教授 環境管理学科(青山会) 城島 透 教授 生物機能科学科(ABIS会) 田茂井 政宏 教授 総会閉会宣言(尾崎 副

新入生の夢

私の夢

農業生産科学科
松岡 美宇

私は小学生の頃からの夢があります。それは、父が作った苺でスイーツをつくり販売していくことです。ですが、この夢は今年からスイーツ屋さんを始めたので叶いました。なので、次の夢はこのスイーツ屋さんを軌道に乗せ販売を成功させていくことが私の夢です。簡単ではないことはわかっています。ですが、この夢は「誰がいつ見ても何か食べていた」といまだによく親戚に言われるくらい甘いものが好きな私にとってどれだけ大変でも成功させたい夢です。私は悲しい・悔しいという気持ちを紛らわせてくれる甘いものを何倍にもしてくれる甘いものは世界を救うと思っています。実際に私にとって甘いものとは、幼いころは食べることの楽しさを教えてくれたものであり、部活や勉強について悩んでいた時や悔しい思いをした時、甘いものは心身ともに救ってくれたものです。私の夢は販売を成功させることです。その前にスイーツを食べる人が一人でも多くなるようなスイーツづくりをしていきたいと考えています。



夢への第一歩

水産学科
奥田 紘生

私は小さい頃から海への憧れが強く、その中で特に魚に興味を持っていました。私の生まれが内陸県であったこともあり、多い頻度で海に向かうことができなかったため、魚でしか魚を見るのができず、魚への興味はさらに増していくばかりでした。

私は小学生の頃から水産関係の研究がしたいという意思を固めていましたが、そこで私が注目したのは養殖業であり、ここなら魚の研究を大いにできると思います。

私の将来の夢

食品栄養学科
白澤 心夏

私の将来の夢は、病院管理栄養士になることです。

私は昔から人の役に立ったり、人のために何かするということが好きでした。また、人と話すことも好きなので人のかかわりが多い仕事に就きたいと考えていました。

私が病院管理栄養士になりたい理由は二つあります。

一つ目は、管理栄養士の仕事の中でも特に患者さんとのかかわりが多いからです。私は自分がしたることによって、その人が嬉しい気持ちになったり笑顔になったりするのを見ることが好きです。なので直接患者さんにかかわり、健康になっていく姿を見ることが病棟管理栄養士は理想の職業だと思ったからです。

二つ目は、高齢化が進む中で「健康に長生きする大切さ」を知り、食生活を通じて人の健康をサポートをしたい

にできると考え農学部水産学科を志望しました。そして入学できた今、ここで私がかなえたい夢は、養殖技術を活用し、日本の食料供給を安定させたい、そして皆がおいしく食べられるような魚を作りた

いというものです。現在、水産業、農業、林業などの一次産業は就業率が低迷しており、今後の食料供給に不安があることを見据え、私は水産業の



面から食料供給の安定化を目指す。私は水産学科に入学したことでの夢に一つ近づくとができました。

私は大学の4年間を通して夢に向かって頑張るためにも日々の勉強を欠かさず、人間的に成長するとともに、希望する研究室を目指したいと思

と想ったからです。平均寿命が80歳を超え、女性は90歳近くになってきていますが健康寿命は70歳前後となっていて、つまり平均して10年は何らかの病気を患って生活できないというこ

とです。せつかく長生きしているの一日のうちほとんどをベッドの上で過ごすというのではないの

間管理栄養士としての知識はもちろん、そのほかにも積極的に様々なことに興味を向け知識を増やし、患者さんに寄り添う管理栄養士になれるように励みたい

将来の夢

応用生命化学科
菰刈 梨紗

私は将来、様々な人の役に立つ仕事に就きたいと思っています。老若男女問わず誰でも使えるオールマイティな化粧品を開発し、たくさんの人の「きれいになりたい」を叶えていきたいと考えていま

す。今日、性別や年代を問わず美意識が高まっていて、化粧品に触れる機会が以前より多くなっているように感じま

す。読者の中にも、進学や就職などを機に化粧品やスキンケアなどを始めてみようと思

い立つ人がいるかもしれませ

ん。そんな時、種類が多すぎて何を選べばいいか、どのよう

私の夢

環境管理学科
林 尚希

私は昆虫や魚など、自然の中で暮らす生き物たちが大好きです。子供のころから生き物の採集や飼育を通して、昆虫の羽化のシーンや魚の生態を観察するのが楽しくて仕方

ありませんでした。そうした経験から、いつしか自然環境を守りたい、現在の環境問題を解決したいという思いが芽

生えるようになりました。

そのような中、本学農学部

のオープンキャンパスに参加した際、キャンパス内に里山があり、環境管理学科では環境問題に様々な角度から取り組んでいることを知り、これが私にとってびつたりとした場所だと思いました。



生物機能科学科に入学して
生物機能科学科
町田 悠介

私が生物機能科学科に入学しようと思ったきっかけは些細なもので、高校の担任の先生が生物担当で、生物について疑問があったときに質問がしやすいため、自然と生物や化学に興味を持つことができたからです。

私がここでやりたいことはいくつかあります。一つ目は遺伝子について学び、高校では知らなかった生物の専門的な知識を身につけて、学んだことが自分の将来に活かせるようにしたいです。

遺伝子などについて研究して人々の役に立てるような発見をしたり、教師になって高校の頃の先生のように理科への興味を持ってもらえるような先生になれるよう資格を取ったりしたいです。二つ目は積極的にコミュニケーションをとり、友人を作ったり、先生になるために必要な会話力を持つように様々な人と話したりすることです。コミュニケーション力というのは社会で生きていくのに必須であり、高校生の頃は関わる人を選んでそれを修正するために積極的に会話していきたいです。

近畿大学の研究から生まれた国産フレッシュキャビア

KINDAI CAVIAR

株式会社アーマリン近大
TEL: 0739-42-4116 shopping@amarine.co.jp

そのおどろき、水族館以上!?

新しい Sea Zoo 7月下旬 OPEN
城崎マリンワールド
KINOSAKI MARINE WORLD

いのちをつなぐ企業
株式会社アクアテイメント

aquataiment
06-6955-9681
info@aquataiment.jp
代表 松前(西林) 水産学科2005年卒業

卒業生 だより & 職場紹介

生物脱臭装置および静電捕集装置を用いた悪臭物質と浮遊微生物の除去

農学研究所 農産学専攻(令和5年度卒)
吉田 悠人



私は、近畿大学大学院においては、農学部農学研究所の植物感染制御工学研究室に所属させて頂いており、主に静電気の技術を用いて、カビやアンモニアガスなど様々なものを除去する研究をしていました。この実験では、水を電極とする静電捕集装置を使用しました。

一方現在は、立命館大学大学院理工学研究科の博士後期課程に進学し、樋口能士教授に指導を担当させて頂いております。こちらでは主に生物脱臭装置という装置を用いて、トルエン、2ブタンンといった、ガス状の揮発性有機化合物

(VOC)を除去する実験を行っています。生物脱臭装置とは、微生物を用いて悪臭物質などガス状の汚染物質を除去する装置です。私が現在行っている実験では、トルエンを50%程度、2ブタンンを90%以上除去する結果が出ています。今後は、近畿大学大学院で行っていたような静電捕集装置を用いて、アンモニア等を除去する実験も実施する予定です。さらに、静電捕集装置と生物脱臭装置とを接続した装置構造も考えています。これは、生物脱臭装置から未処理で排出されるガス状の窒素成分や微生物、ウイルスを静電捕集装置で除去するものです。生物脱臭装置は、主に工場や下水処理施設等から出るにおいの除去に用いられていますが、静電捕集装置を加えてウイルス等を除去することで、学校の教室や百貨店等の商業施設などの日常生活圏へ適用範囲が広がることを期待できます。

これらの装置を用いた研究は、私にとって非常に面白くやりがいを感じています。立命館大学大学院は、近畿大学大学院と同様に大変素晴らしい大学院で、指導教員の方も非常に親切で、楽しく研究等をさせて頂いております。



アサリの資源量回復を目指す
水産学(令和5年度卒)
市原 聡人

私は、卒業後、愛知県庁に入庁し、現在愛知県水産試験場で勤務しています。愛知県は、アサリの漁獲量が全国一位であり、愛知県の主要な海産物となっています。しかし、2014年頃から県内のアサリ漁獲量は激減し、大きな問題となっています。水質や底質等の漁場環境調査やアサリの生息状況調査を行い、漁場環境とアサリ資源量の関係を調べ、資源量回復に向けた調査研究を行っています。雨や風、時には雪に打たれながら乗船し、海上で調査する事もあります。漁業者や行政の方など様々な人と関わり、協力してもらいながら、愛知県の水産業の発展に日々尽力しています。



学生時代は、海産魚の種苗生産について研究していましたが、実験デザインスキルや論文執筆で培った文章力、そして種苗生産で得た気力と体力は大いに業務に役立っています。



管理栄養士10年目を迎え、日々業務を振り返って思うこと
食品栄養学科(平成26年度卒)
田村 真由子

2015年に一般社団法人水口病院に管理栄養士として就職し、今年で10年目となりました。当院は滋賀県で一番古い精神科の単科病院で、病床数407床に加えて併設施設、職員食堂等を含めると1日の提供食数は2,000食以上です。給食運営は直営のため栄養管理業務に加えて厨房業務にも携わります。2018年からは併設の介護老人保健施設スキナヴィラ水口を担当しています。

2021年度の介護報酬改定で管理栄養士の人員基準が見直されて以降、2人体制となり入所者様により細やかな栄養ケア・マネジメントを実施できるようになりました。栄養管理の重要性が高く評価され、やりがいを感じています。また職場以外では滋賀県老健協会の栄養部会に所属し、老健施設の管理栄養士を対象とした研修会の企画と運営を行っています。施設外の活動にも積極的に参加することで人脈も視野も広がりました。今後も自分の目指す管理栄養士像に向かって一つずつステップアップできればと思います。



知識を習得できるよう研鑽しています。学生生活では大学院進学のリミットが流行しました。行動制限のため対面授業の中止、学会への参加見送りなど学習環境に大きな影響がありました。資格取得するなど自己学習に取り組みました。現状が満足のいくものでなくとも今の自分が何ができるかを考え、その目標に向け努力を重ねることでより実りのある成果を得られる学生生活になると思います。

学生時代に取り組んだ淡水魚の保全活動では、生き物を人の暮らしと身近な存在にしたいことが大切だと学びました。そして自身が生き物好きになったきっかけは毎日触れ合ったペットたちのおかげだと気づき、卒業後はキョーリンフード工業株式会社に入社しました。キョーリンフード工業では観賞魚から小動物、爬虫類に至るまで多種多様な生体に合わせてペットフードを製造しています。今年で入社2年目となり、現在は品質管理課に所属しています。製品の品質向上の仕組みづくりや日々の製造に影響する衛生管理が主な業務で



ペットフードで人と生き物をつなげる
環境管理学科(令和4年度卒)
原 皓瑠

自社製品がお客様に愛用していただけている一番の理由は高い品質だと思っており、その向上に携われることにやりがいを感じています。大学ともつながりを持ち続けており、学生時代の取り組みと会社を繋げる役割になりたいと考えています。人とペットは家族同然と呼ばれるこの時代にペットの豊かな暮らしへ貢献するため、これからもより良いペットフード製造を行っていきたく思います。



2022年度の介護報酬改定で管理栄養士の人員基準が見直されて以降、2人体制となり入所者様により細やかな栄養ケア・マネジメントを実施できるようになりました。栄養管理の重要性が高く評価され、やりがいを感じています。また職場以外では滋賀県老健協会の栄養部会に所属し、老健施設の管理栄養士を対象とした研修会の企画と運営を行っています。施設外の活動にも積極的に参加することで人脈も視野も広がりました。今後も自分の目指す管理栄養士像に向かって一つずつステップアップできればと思います。

近況報告
農学研究所 応用生命化学専攻(令和5年度卒)
辰巳 鮎香

大学院を修了し現在、食品添加物メーカーの品質管理部で仕事をしています。業務の内容はサンプルの分析からクライアントの要望に合わせた添加物の提案まで多岐にわたります。化学的な知識が必要となり、大学の研究室で学んだことを活かすことができている。また、昨今の健康ブームから食品添加物への意識やニーズも変化しており、



職場紹介
生物機能学科(令和2年度卒)
林 明憲

私は、キユーピー醸造株式に入社し、滋賀工場での勤務4年目となりました。キユーピー醸造では、その名のおろり、キユーピーのマヨネーズの原料となるお酢はもろろのこと、寿司酢・だし・調味液など多岐にわたる食品を製造しています。私の配属は製造課で、充填機を用いてお酢や調味液を充填・箱詰めを行う作業を2年、その後、醸造酢を、濾過機を用いて濾過する作業を1年担当しました。食品工場というほとんどが機械化されているというイメージですが、実際は手作業



の部分も多く、苦労することも多いですが、その昔ながらの手作業を大事にすることが、より良い製品づくりに繋がっているのだと感じています。弊社には近畿大学農学部出身の先輩や後輩が多数おられるため、とても心強く、スムーズに社会人生活をスタートさせることができると思っています。また、研究部門や発酵課など、農学部で学んだ発酵の知識を活かすことのできる部署もあり、皆さんの活躍の場が多い会社であると思います。今後も、酢で世界の食と健康に貢献するために、創意工夫を重ねながら、安全安心な商品づくりに取り組んでいきたいと思っています。

在学だより

メロンが大好きで

農産生産科学科
植物感染制御学研究室4年生
福政 蓮太郎

私はメロンが大好きで、メロンに関連した研究をしている。メロンに感染した研究をしていて、近畿大学に進学することを決意しました。そして3年になり、植物感染制御工学研究室に所属し、4年となった現在までメロンうどんこ病の研究を行っています。現在、うどんこ病は複数の農薬に耐性があるということがわかってきています。私の研

世界が広がった

水産学
漁業生産システム研究室4年生
根岸 美羽

気が付けば研究室が決まり対馬にいました。私の所属している研究室ではフィールドワークが多く、野外での調査がメインです。今までのように屋内には何も始まりません。そこで私はOBの研究者の方からのお誘いで2週間の対馬での調査に参加し、クロマグロへの小型データ記録



卒業研究では他の魚種ですが魚の回遊について研究しています。今後も、これまでに会った人との縁を大切に、フィールド研究を行って、魚類の生態の解明を目指していきたいです。

究は、その耐性を示している器官の遺伝子の変異についてPCRを用いて解明することです。PCRとは、DNAの特定の領域を微量のDNAから増幅させる方法です。PCRは電気泳動を行って結果を確認するまで、実験が成功しているか判断できず、失敗した時にどの過程に問題があったのか原因を解明することが難しいです。遺伝子を増幅させるためのプライマーの作成から、温度設定、サンプルの採取、電気泳動までドライア

計の装着と放流の補助を行いました。クロマグロの経路水温、照度そして加速度からどのような回遊を行っているのか調べるためです。

実際に調査に参加し、一人ではできない研究だからこそフィールド調査は楽しいと感じました。今までは一人でやるものかと思っていました。しかし、フィールド研究は研究者や漁師の方など様々な人と協力して行います。それに気が付いたとき、自身の世界が広がった感覚がありました。

コロナ禍を乗り越えた

応用生命化学科
応用細胞生物学研究室4年生
重谷 凜

新型コロナウイルスの影響で社会が目まぐるしく変化して不安の中、私の大学生活はスタートしました。コロナ禍で感じたのは、いかに「主体性」が重要かということでした。多くの制限を強いられる中、夢や目標を見失わず、今自分に何ができるかを考え、主体的に行動することが大切なのだと感じました。

私は、食を通して社会をより良くしたいという夢があり、本部キャンパスの食品ロス削減推進団体に様々な活動を行ってきました。仲間と今できることを模索し、主体的に行動した経験は、大きな自信につながりました。現在は卒業研究として「大豆加工食品の機能性及びアレルギー性」に関する研究に打ち込んでいます。思うようにいかない事もありますが、同期や先輩、先生方に支えられながら、毎日楽しく研究が

「食を通して、人を笑顔にしたい」。これは私が入学時から変わらず抱き続けている願いです。その中でも私が管理栄養士を志したのは、身近な人ががんを罹患したことがきっかけでした。その方は治療が進むにつれて、日に日に元気がなくなり、笑顔も減っていききました。当時高校生であつた私には知識や経験が著しく不足しており、「もっと知識があれば」と感じるものがあつた。本学に入学することを決意しました。学内の授業はどれも有意義なものであり、食事を思うように摂取できない原因は様々であることとを学びました。そんな中でも患者様にとって無理のない制限にとどめたい、食事の楽しさを忘れてほしくないという思いで、現在は糖尿病と腎臓病の食事療法についての研究に勤しんでいます。将来は1人でも多くの方に食事の楽しさとその重要性をお伝えできるよう管理栄養士となれるよう日々の努力を怠らず、精進してまいります。

管理栄養士に対する私の思い

食品栄養学
臨床栄養学研究室4年生
入江 乃々佳

「食を通して、人を笑顔にしたい」。これは私が入学時から変わらず抱き続けている願いです。その中でも私が管理栄養士を志したのは、身近な人ががんを罹患したことがきっかけでした。その方は治療が進むにつれて、日に日に元気がなくなり、笑顔も減っていききました。当時高校生であつた私には知識や経験が著しく不足しており、「もっと知識があれば」と感じるものがあつた。本学に入学することを決意しました。学内の授業はどれも有意義なものであり、食事を思うように摂取できない原因は様々であることとを学びました。そんな中でも患者様にとって無理のない制限にとどめたい、食事の楽しさを忘れてほしくないという思いで、現在は糖尿病と腎臓病の食事療法についての研究に勤しんでいます。将来は1人でも多くの方に食事の楽しさとその重要性をお伝えできるよう管理栄養士となれるよう日々の努力を怠らず、精進してまいります。



森林教育と学内里山活動

環境管理学科
森林資源学研究室4年生
馬場 絢子

卒論研究では、森林教育プログラムの学習効果と持続性を検証し、学校現場で導入しやすい新たな森林教育プログラムの提言に向けての研究を行っています。さらに、環境教育活動の一環として、農学部内で里山インストラクター活動も行っており、学部認定資格である「里山インストラクター初級」を取得しました。今後の進路として、大学院進学を希望しています。現在の森林教育においては、学校現場に導入しにくいことや、教員や指導者不足、さらには学習効果の持続性といった課題があります。森林教育が普



5年ぶりの北山研究室ゼミ旅行

研究室での生活

生物機能科学科
生物有機化学研究室4年生
若子 拓史

入学してからも3年が経ち、時の流れの早さを感じつつも、いろいろな変化や学び、たくさんの交流を経て、充実

及すれば、日本の放置林問題の解決策や多面的機能の増大、森林を守る人財育成にも繋がります。私の将来の夢は、環境教育で重要視されている価値変容と行動に直結し、さらには学習効果の持続性を高められ、学校現場で導入しやすいようなプログラムを開発し、長年に渡り開発と実践を行うことです。

した大学生生活を送ることができました。その集大成となる大学4年生になった私は、研究室という空間で日々努力しています。今までの3年間とは違う研究室中心の生活はとにかく忙しく、多くの学びもあり、とてもやりがいがあります。その中で、研究室の同級生、先

輩、先生とのコミュニケーションが私の支えとなっています。お互いの研究成果や疑問を報告し合い、意見交換を重ねる日々がとても楽しく、研究に対して熱心に取り組む姿勢が私を高めていると日々感じています。この優れた環境で、私は私の持つすべてをぶつける気持ちで

研究に取り組んでいます。満足のいく結果ばかりではないけれども、上手いこと時の達成感や喜びは、ここでしか得られない非常にいい経験になっていると思います。今後は、一生懸命研究に取り組んで、学生という区切りに対して後悔のないよう努力していきたいです。

緑友会名簿訂正(変更)届
氏名
所属研究室
現住所
勤務先
住所等間違っていた、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。
連絡先: 〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

近畿大学校友会 食品支部 会員募集中!

一支部概要一
設立 平成26年6月7日
支部長 酒井 恵二
年会費 10,000円
会員数 124名 (令和6年6月1日現在)
連絡先 【事務局】
立花容器株式会社
岡山県小田郡矢掛町浅海385-1
TEL 0866-82-3300

食品支部は、2014年6月7日に「食」に関する専門職支部として設立しました。以来、会員数も100名を越え、会員間でのビジネスマッチングを目的とした定期例会や国内外の会員企業への視察研修など、さまざまな活動を積極的に展開しています。おかげさまで今年で設立10周年を迎える事が出来ました。食品メーカーだけでなく、広く全国の農林水産業・飲食・小売・流通・機械・設備・梱包資材等、食品産業全般から参加を募っております。昨年より新型コロナウイルス感染症分類の変更に伴い、少しずつ活動を再開しました。対面でのビジネスマッチング会合などの活動で、ご校友の皆様との輪が広がり新たなビジネスチャンスに繋がる様、当支部活動へのご参加を心よりお待ちしております。



近畿大学校友会食品支部 第一回総会
2014年6月7日
ここからスタートしました
近畿大学校友会 食品支部 Facebookのご案内
公式Facebookを開発しております。校友会食品支部の様々な活動や情報を公開しています。近畿大学校友会 食品支部

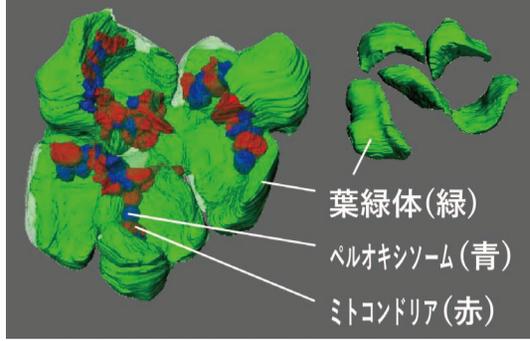
大学院生だより

植物細胞を3D化する ことで見えるもの

農業生産科学専攻博士後期課程
作物学研究室
武内 惇

葉緑体の立体像、と言われるものの立体構造の解析が必要になります。そこで、作物学研究室では、連続撮影した超薄切片画像を積み重ねることで3D像を作製する、三次元再構築法を用いて植物細胞を3D化する研究を行っています。

3D化して初めてわかることは多く、これまで葉緑体は塩害を受けると膨潤すると言われていたが、実際は体積は増えておらず、球状に変形したのみであることがわかりました。それだけでなく、突起体の形成や、他の細胞小器官を葉緑体が包み込む変形も見られ、機能性への影響が気になるところで、



葉緑体(緑)
ペルオキシソーム(青)
ミトコンドリア(赤)

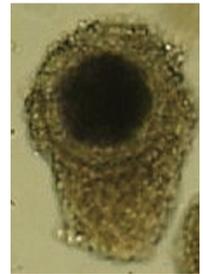
今後、塩害による葉緑体の変形の全貌や、葉緑体の立体構造と機能性の関係を明らかにするべく、引き続き地道な3D化作業に努めて参ります。

大学院生になってからの生活

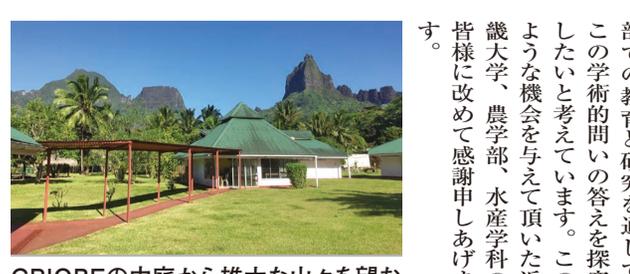
農学研究科応用生命化学専攻博士前期課程
食品微生物工学研究室
滝澤 輪旺

私は、大学進学時からキノコについての研究に興味があり、その中でも、不可能と言われるマツタケの人工栽培に関心をもち研究室を決めました。学部3年生の頃から研究を開始し、マツタケ菌糸体の効率的な成育に向けての研究を続けてきました。大学院では、マツタケ菌糸体が分解する糖質について研究を行っています。実験操作が上手いかわない、芳しい結果が

出ないといった困難もありますが、同期や先輩、指導教員といった方々の助けによって研究を進められています。大学院では、学部生の時よりも専門性が高い知識やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを求められる機会が増え、自身の力不足を痛感しています。しかし、研究発表など一つずつ乗り越えていくにつれて、少しずつですが自分自身の成長を感じられています。これからの1年半、日々助けてくださる周りの方々への感謝を忘れず、研鑽を重ねていきたいと考えています。



私が所属する動物発生工学研究室で、現在は卵や多能性幹細胞など畜産から医療と多岐にわたる研究が行われています。私はヒト生殖補助医療胚培養士に興味があり卵の老化に関する研究をしています。と言ってもヒトの卵を使うわけにはいかないのでブタやマウスの卵を用いて研究します。不思議なことに動物種が変われば同じ哺乳類でも卵の大きな原因です。鳥類、特にインコやオウムなどが同じ大きさの哺乳



河口での小型定置網による生物採集

CRIOBEの中庭から雄大な山々を望む

大学院生報告

水産学専攻前期課程
水族環境研究室
石川 碧伊

長かったようで短すぎた4年間の学部生活が終わり、私は大学院生になった。1・2年生の時はコロナ禍だったこともあり、環境に付いていくのに必死だった。3・4年生の時は研究室生活が始まり、がむしゃらに実験を行って、いつの間にか卒業した。研究室に所属されたの右も左も分からない状態の私を、先生・先輩方は根気よく丁寧に様々なことを教えてくださった。だからこそ大学院生となった私は、先輩として後輩をサポートしたい。また、学部時代は自分の実験のみに手一杯になってしまっていた。大学院



大学院生便り

バイオサイエンス専攻博士前期課程
動物発生工学研究室
植田 優希

私が所属する動物発生工学研究室は、現在は卵や多能性幹細胞など畜産から医療と多岐にわたる研究が行われています。私はヒト生殖補助医療胚培養士に興味があり卵の老化に関する研究をしています。と言ってもヒトの卵を使うわけにはいかないのでブタやマウスの卵を用いて研究します。不思議なことに動物種が変われば同じ哺乳類でも卵の大きな原因です。鳥類、特にインコやオウムなどが同じ大きさの哺乳

世界で最も繁栄している分類群の1つに、私たち脊椎動物が挙げられます。私たちがこれほどまでに栄えた要因に生命情報を司るゲノムセットの倍加現象が関わったと考えられています。私は国内の淡水魚のドジョウの仲間ゲノムを倍加させた4倍体の種を対象に、分子系統学的・細胞遺伝学的ゲノムの倍加現象が引き起こす進化的なプロセスの研究を行っており、この課題に没頭しています。

以前、「卒業研究では学内で最も詳しい人に、修論研究



周りの同級生の多くが既に社会人として働いているため、焦りや不安に駆られた時期もありました。しかし、研究室の先生や先輩、仲間と共に過ごす時間は非常に充実し、毎日が瞬く間に過ぎていくように感じています。この2年間でいかに成長できるかは、全て自分次第だと思っているので、周囲への感謝を忘れず、日々探求心を持って研究に励みます。

お山の大将にならないように

環境管理専攻博士前期課程
水圏生態学研究室
岡 隼斗

フレンチポリネシア・モーリア島の在外研究

水産学
准教授 渡邊 俊

2023年2月26日から9月2日までの約6ヶ月間、在外研究員として、南太平洋のモーリア島にあるフレンチポリネシア島嶼環境観測研究センター(CRIOBE)へ渡航しました。受け入れ研究者はPierre Sasaki博

士であり、2002年にインド洋のレニオン島にて初めて会った以来、ウナギの研究を通じて親睦を深めてきました。フレンチポリネシアの島々は今までに大陸と一切繋がったことはないのに、川に生息するすべての生物は海を起源としています。きれいな海とリゾートのイメージが強い場所ではありますが、私はその海に背を向けて、河口や川での調査を行いました。その際、「なぜ、魚は海と川を回遊するのか?」との学術的問いを、素晴らしいフィールドの中で体感し、考えることができました。今後も農学部での教育と研究を通じて、この学術的問いの答えを探りたいと考えています。このような機会を与えて頂いた近畿大学、農学部、水産学部の皆様改めて感謝申し上げます。

自分と向き合うこと

応用生命化学専攻博士前期課程
公衆栄養学研究室
有本 明寿香

今の研究をさらに追及したい。大学四年生だった私は、その意思のもと、研究に専念できる大学院への進学を決意しました。そして現在、熱中症や疲労などから誘発される足のつり、いわゆる「こむら返り」についての研究をしています。足のつりは、スポーツ中や寝ている間にも起こり日常生活に支障が出る症状ですが、そのメカニズムは明確にされていないためです。そして、それを解明すると共に、予防や改善に有効な栄養素を発見し、沢山の人の生活を改善し社会に貢献することを目標としています。

世界で最も繁栄している分類群の1つに、私たち脊椎動物が挙げられます。私たちがこれほどまでに栄えた要因に生命情報を司るゲノムセットの倍加現象が関わったと考えられています。私は国内の淡水魚のドジョウの仲間ゲノムを倍加させた4倍体の種を対象に、分子系統学的・細胞遺伝学的ゲノムの倍加現象が引き起こす進化的なプロセスの研究を行っており、この課題に没頭しています。

お山の大将にならないように

環境管理専攻博士前期課程
水圏生態学研究室
岡 隼斗

では国内で最も詳しい人になることを目指すべきだ」という記事を目にしました。大学内の限られた範囲では学年が上がるにつれて知識や経験が飛び抜けていくのは当然のことです。自分の身の周りだけを見ていては自分が最も詳しい人だと思ってしまうことがあってもいいかもしれません。学外や国外に目を向けると全くそんなことはないということを常に肝に命じて、精力的に学外との交流を深めて、より高い頂を目指していこうと思います。



Air Mail

緑友会、ゴルフコンペへ

新しい時代の幕開け！ ゴルフ愛好会、 新会長に寺下先生

長きに渡りゴルフ愛好会を率いてきた村上先生が任期を終え、新たな時代の幕開けとなりました。村上先生は、長年にわたってゴルフ愛好会を熱心に支えてこられ、そのリーダーシップと情熱により、会員数も増加して名実ともに農学部緑友会事業のひとつになりました。村上先生を中心に、会員たちはゴルフを楽しむだけでなく、友情と協力の大切さも学んできました。村上先生の貢献に心から感謝いたします。

新しい会長として、寺下先生が選出されました。新会長の寺下先生は、ゴルフ愛好会の活動に深くご協力いただいたベテラン会員です。ゴルフへの深い愛情と豊富な経験をお持ちなので、ゴルフ愛好会を次のステップに進めてもらえらると思います。

村上先生の功績に感謝し、新たな時代の幕開けを迎えるゴルフ愛好会。新会長の寺下先生が率いる下、ゴルフ愛好会は新たな目標に向かって邁進してまいります。参加者の皆さんが楽しい一日を過ごし、競技を通してゴルフの楽しさを共有できる「緑友会ゴルフコンペ」に、多くのゴルフファンが参加してまいります。



加茂カントリークラブで開催された「第10回緑友会ゴルフコンペ」は、いつも通り大盛況でした。天候にも恵まれ、多くのゴルファーが参加し、表彰式では、緑友会から村上先生に花束が贈られました。

第14回KINKAN会 イベントを終えて

食品栄養学科の卒業生による「KINKAN会」イベントを令和5年9月30日に開催しました。例年、卒業生の数名が卒後の活躍についてご報告いただいておりますが、今年度は懇親会をメインとしたイベント開催とし、つながる館において現地開催で実施しました。参加者は関西圏だけでなく、遠方からも多くの方にご参加いただきました。懐かしの友人や恩師、先輩、

後輩との交流だけでなく、今回のイベントを通じて新たな縦や横の交流もみられました。参加した卒業生からは、栄養士に限らず、多領域で活躍する同窓生との関わりは非常に刺激になりました、とお声もいただきました。

お忙しい中ご参加くださいました先生方、卒業生の皆様、誠にありがとうございます。今後もKINKAN会イベント開催の詳細につきましては、



各期の運営委員より随時ご連絡いたしますので、皆様是非ご参加ください。



にご参加いただけることを願っています。

農学部祭 の案内

毎年恒例となりました「農学部祭」の季節が今年もやってまいりました。今年度の農学部祭は11月1日(金)から11月3日(日)までの3日間開催を考えております。日程につきましては、1日に学生が主体となつて行う体育祭を2日・3日には一般客にもご来場いただける農学部祭を実施する予定となっております。



農学部祭につきましては昨年同様、今年度も対面開催を検討中です。大型ステージでは、お笑い芸人による漫才やアーティストライブ、音楽研究同好会による学生ライブなど様々な企画を行う予定です。また、学内でのスタンブラーや、近年恒例となっているe-sports大会など農学部祭を盛り上げるよう努めてまいります。他にも様々な団体が実施する展示会や研究会・サークル・部活・研究室などが出店する模擬店、奈良県内の一部市町村の出店をはじめとする収穫祭も合わせて検討しております。卒業生の皆様や地域住民の方々、学生全員が楽しめる農学部祭を農学部祭実行委員会を中心となり、一丸となって作り上げていく所存です。皆様のご参加を学生一同、心よりお待ちしております。

すぎのこ会開催のご案内

- 日 時：令和6年9月29日(日曜日)
受付開始/10時30分から
総会/11時00分から11時45分
交流会/12時00分～14時00分
- 場 所：シェラトン都ホテル大阪 3階「志摩の間」
大阪市天王寺区上本町6-1-55
最寄り駅：近鉄大阪上本町駅
- 費 用：15,000円 内訳(当日会費 5,000円、積立金より 10,000円)

2020年に予定しておりましたが、すぎのこ会総会が急遽コロナの影響で中止を余儀なくされ、皆様には大変ご迷惑をお掛け致しましたが、今回改めて新会長の基すぎのこ会を開催することと成りました。

杉野先生はお身体の事も有り、ご参加いただけませんが、芦田先生は参加されますので、是非多くの会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。

なお、ご参加される方はホテルの予約の関係も有りますので、9月24日までに下記までご連絡ください。

- 連絡先：メールアドレス T-NakamuraKazuyuki@pedu.osaka.jp 会長 中村和幸宛
(ご参加にあたり食物アレルギーのある方は、アレルギー食品の名称を同メールにてお知らせください) O B 会の名称 「すぎのこ会」
- 主 催：農学部農学科植物生理学研究室(資源作物学研究室)
当時の担当教授 杉野 守先生、准教授 芦田 馨先生

クラブ・同好会のご紹介

農学部には、東大阪時代より多くのクラブ・同好会がありました。現在も継続活動されている団体について、別表の通りまとめてあります。さきのコロナ禍では、これまでのクラブ・同好会活動が滞り、現役生のクラブ・同好会への取り組みへの不安もあるようです。クラブ・同好会OBの皆様におかれましては、OB会活動などを通じて、思い出話として現役の学生へ以前の状況をお伝えいただく機会を作っていただきたいと思っております。今回は、各団体のOB会やその集まり(OB会や懇親会など)などについて調査いたしました。現在、OB会のない団体については、この記事が設立の機会となれば幸いです。今後ともクラブ・同好会のOBとして現役学生へのご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

クラブ	顧問	会員数	OB会	OB会開催	特記事項
園芸研究会	森本先生	40	有	年1回	5年ごとに大きい規模のOB会(次回R6年8月10日)
ゴルフ部	山下先生	6	無	無	
古寺研究会	飯田先生	72	不詳	不詳	
サイクリング部	大沼先生	67	有	年1回	毎年1月上旬頃OB会開催
サッカー部	倉田先生	60	無	無	
食研究会	澤邊先生	48	無	年1回	コロナ禍以前は年1回の懇親会
水産実理研究会	明神先生	148	無	不定期	不定期にOB会があるらしい
スキー部	光永先生	50	無	無	
生物研究会	河内先生	90	無	無	
軟式野球部	川崎先生	41	無	無	
農芸化学研究会	財満先生	50	有	年1回	
放送部	事務長	5	不詳	不詳	
吹奏楽団	神崎先生	26	不詳	不詳	

同好会	顧問	会員数	OB会	OB会開催	特記事項
音楽研究同好会	白坂先生	81	不詳	不詳	
写真同好会	武田先生	50	無	年1回	正式なOB会はなし
釣同好会 釣友会	富田先生	25	無	無	
テニス同好会	香取先生	60	無	無	
バレーボール同好会	谷口先生	100	不詳	不詳	
美術同好会	鶴田先生	60	有	無	
陸上競技同好会	北川先生	92	不詳	不詳	
バスケットボール同好会	加藤先生	50	無	無	
メダカの学校同好会	前潟先生	35	無	無	

令和5年度 近畿大学農学部緑友会事業報告

月日	項目	場 所
4月11日	運営委員会	第一会議室
5月9日	終身会費納付書発送(654通)	
6月10日	幹事会	第一会議室
	1) 令和4年度事業報告	
	2) 令和4年度決算報告	
	3) 令和5年度事業計画(案)	
	4) 令和5年度予算(案)	
5) その他		
9月19日	会報第28号会員へ発送	
10月1日	緑友会ゴルフコンペ	京阪カントリークラブ
11月3日	第11回総会・懇親会開催	
12月12日	終身会費納付書2回目発送(428通)	202教室・食堂2F
令和6年		
1月10日	終身会費未納者を6学科に通知	
2月6日	緑友会ゴルフコンペ	加茂カントリークラブ
3月3日	委員会	
3月5日	緑友会賞 授与	C会議室
3月19日	緑友会賞 授与	

令和5年度 近畿大学農学部緑友会決算

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	6,626,210	郵便費	1,373,014
終身会費(経延2名分)	20,000	印刷複写費	1,401,623
終身会費	3,430,000	会議会合費	45,996
広告掲載料	60,000	人件費	958,584
同窓会活動助成金(2回×50,000円)	100,000	緑友会賞	130,000
同窓会活動支援金(11/3 緑友会懇親会)	200,000	雑費	110,973
総会祝金(近畿大学)	20,000	6学科への補助金	210,774
総会祝金(校友会)	30,000	総会懇親会費用(11/3)	219,500
懇親会参加費	81,000		
寄付金	31,148	支出の部計	4,450,464
利息	56	次年度繰越金	6,147,950
合 計	10,598,414	合 計	10,598,414

会計幹事 武田 徹 会計幹事 永田 恵里奈
上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。

2024年3月31日

監事 小林 徹
監事 谷 哲弥